

加^二居^一誓書 乍載宮蓋取廻進豐後守次附表包豐州披見訖持入奥ノ方此間撤視并蓋等豐後守還出

述賀詞申畏存候由起座歸畢之後向柳原亭謝同伴之儀○中

誓書調檀紙以同紙爲表包折かけ、二豐後守一より至來之案文之紙之寸法之通二調之一

就傳奏之役儀勤仕公家武家御爲聊以疎略存間鋪候公武御用之儀付而相役中惡不仕諸事申

合依怙最員無之糺善惡正路可致沙汰候次御用之儀各被相尋子細有之節不貽心底可申者也

右於致違背者可蒙梵天帝釋四大天王總而日本國中大小神祇御罰者也

寛延三年六月廿五日

兼平血判

堀田相模守殿

酒井左衛門尉殿

本多伯耆守殿

松平右近將監殿

松平豊後守殿

傳授起請

〔古今著聞集和歌五〕彼清輔朝臣の傳へたる人丸の影は○中 白河院此道御好有てかの影をめして、
勝光明院の寶藏におさめられにけり修理大夫顯季卿近習にて所望しけれ共御ゆるしなかり

けるを、あながちに申てつるに寫しとりつ顯季卿一男中納言長實卿二男參議家保卿この道に

たへずとて三男左京大夫顯季卿にゆづりけり○中 實子なりとも此道にたへざらんものには、

つたふべからず寫しもすべからず起請文あるとかや

〔古今著聞集管絃歌舞六〕中御門内大臣子息大納言宗家卿外孫同宗能卿に授られたりけり六波羅

の太政入道○平 盛嚴島の内侍につたふべきよし宗家卿に示されければ歎ながら世にしたがふ

ならひ方およばでおとる説を傳へられけり但他人に教べからざる由をまづ起請をぞか、せ